

## 2026年3月26日所長会見 所感

- 本日は私から3点お伝えいたします。
- 1点目は、6号機の運転状況についてです。
- 発電機から微少な地絡を示す警報が発報した事案に関して、3月21日に対策を終え、3月22日に発電と送電を再開いたしました。
- 現在はプラントの状況を確認しながら、定格熱出力に向けた上昇操作を行っております。順調に進めば、3月27日の夜に、定格熱出力に到達する見通しです。  
その後の総合負荷性能検査の日程については、定格熱出力到達後のプラント状況を踏まえ、規制庁とも相談しながら決定してまいります。
- 引き続き、起動対応中に不具合などを確認した場合は、関係者でしっかりと確認を行い、一つひとつ慎重に対応してまいります。
- 2点目は、1号機および3号機の非常用ディーゼル発電機の休止運用についてです。お手元の資料もご覧ください。
- 発電所では、これまでも継続して、火災等の可燃物へのリスク低減を図ってきております。その一環として、2024年7月に、2号機および4号機の非常用ディーゼル発電機をそれぞれ1台ずつ休止の運用としました。
- 休止後の運用実績を踏まえて、1号機および3号機についても、非常用ディーゼル発電機をそれぞれ1台ずつ休止しても、発電所の安全性に影響はないと判断し、4月1日から休止運用とすることとしました。

- 資料の注意書きの保安規定要求に記載もありますが、現在の発電所の状況においては、停止している1～5号機および、7号機について、各1台ずつと、予備の1台、運転中である6号機については、3台の計10台が必要ですが、運用中のものは17台あり、十分な裕度を確保しています。
- 今後も、発電所全体で火災等のリスク低減に努めてまいります。
- 3点目は、コミュニケーション活動についてです。
- 3月22日に上越市で開催したコミュニケーションブースに参加してきました。
- ブースに来られた方へ、VRも活用しながら、安全対策や6号機の起動状況について説明を行いました。  
対話をした方からは、
  - ・「安全のために立ち止まって確認していることがわかった」
  - ・「3月11日当時を思い出して、不安に感じていましたが、事故を踏まえ、安全に終わりはないという姿勢は、とても良いと思いました」といったお声を頂戴しております。
- その他にも多くの声をいただきましたので、発電所の運営にしっかりと活かしてまいりたいと思います。
- 地域のみなさまから信頼を得る取り組みは、安全同様、終わりはないと考えています。  
今後も、対面でのコミュニケーション活動や、バスツアーなど発電所を直接ご覧いただく取組を継続して実施してまいります。
- 引き続き、県民の皆さま一人ひとりのご意見や、ご要望をお聴きしながら、ご不安やご疑問に丁寧にお答えし、信頼いただけるよう、行動と実績で示してまいります。